

今月の重点活動

■水稲 郡上産米ブランド化研究会が現地研修会を開催

8月10日、郡上市白鳥町内において郡上産米ブランド化研究会が現地研修会を開催した。

当研究会は、良食味米生産や販売に関する調査、会員相互の情報交換を目的に平成28年に発足し、これまで郡上おいしい米コンテストや全国コンクールにおいて上位入賞を果たしている。

当日は、農業普及課からこれまでのコンテスト結果より得られた良食味米の栽培管理ポイントを解説した後、食味向上と環境保全を目的とした生分解性一発肥料「米の極み」によるコシヒカリ栽培や、作期分散のため導入を検討している新品種「ほしじるし」の高標高（海拔約400m）実証ほ場を視察した。

農業普及課では、今後も研修会の企画・運営やコンテストへの参加など研究会の活動支援を通じて、郡上地域における良食味米の生産振興を進める。



【実証ほ場にて意見交換】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者 就農状況確認を実施

過去2年間に農業次世代人材投資資金の準備型を受給した新規就農者には、年2回アグリチャレンジ支援センターによる就農状況確認が要件となっている。

郡上市内の対象者は5名で、農業普及課の同席のもと、今年度1回目の確認作業が8月5日から開始された。

確認作業では、関係者が現地を訪問しそれぞれの経営目標の達成状況や今後の方針を聞き取り、必要に応じて改善すべき点など助言を行った。

この他、同資金の経営開始型を受給中の8名に対しては、農業普及課と郡上市担当者が定期的に巡回確認を実施し、同様の助言等を行っている。

農業普及課では、今後も新規就農者の早期経営安定を図るため、各機関と連携し継続的な支援を実施する。



【対象者へ営農状況の確認】

■青年農業士 若手農業者による軽トラ市を支援

8月22日、郡上地区青年農業士連絡協議会が主催する若手農業者による軽トラ市が、郡上市大和町にある郡上旬彩館の駐車場にて開催された。

このイベントは、若手農業者の取り組みを地元でPRするとともに、自ら販売することで消費者ニーズ把握し経営に活かすことを目的に、郡上地区青年農業士連絡協議会が企画し、郡上旬彩館や市の協力のもと昨年から開催している。

当日は、あいにくの雨模様であったが、若手農業者に加え青年農業士が応援として参加し、野菜や加工品を消費者に直接販売し好評を得ていた。

農業普及課では、今後も協議会事務局として会の運営だけでなく、青年農業士や若手農業者の営農活動を支援する。



【軽トラ市で若手農業者の野菜販売】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト 地域別研修会を開催

8月5日、郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会が、郡上市白鳥町内にある「郡上トマトの学校」と高鷲町内の生産者ほ場2会場において、地域別研修会を開催した。

研修会では、はじめに農業普及課から天気予報をもとに今後は気温が低めで推移することが予想され、灰色かび病や疫病の発生に注意し早めの防除に心掛けること、樹勢（特に着果数）に合わせた追肥量やかん水の調整方法を行うことを現地の状況を交えながら指導を行った。

その後、参加者は各ほ場の生育状況を視察し、それぞれの栽培管理の参考とした。

今年度も、気象変動が激しくトマト栽培には厳しい環境が続いているが、農業普及課では昨年以上の収量を目指し支援を行う。



【各ほ場にて生育状況を説明】

■花き トルコギキョウ試験品種の調査を実施

ひるがのフラワーサークルでは、高鷲地域7戸の組合員がトルコギキョウ生産に取り組んでいる。トルコギキョウは種苗会社によって多くの品種が開発されており、組合では地域に適合し、かつ消費者にとって魅力的な切り花を提供するため、農業普及課の支援のもと品種試験を実施している。

8月10日には、一部品種が開花期を迎えたため農業普及課による試験ほ場調査を実施した。調査では、花卉のボリュームを中心に切り花品質や耐病性などの項目の調査を行った。

組合では他に9品種を試験しており、9月中旬頃まで開花が続くことから順次調査を実施する。

農業普及課では、得られたデータを元に新品種の導入を提案し、産地の強みを生かしたブランド強化を支援する。



【開花期を迎えた試験品種】

中山間地域を守り育てる対策

■農業振興 営農連絡会議にて有機農業について意見交換

8月4日、郡上農林事務所、郡上市、JAめぐみの3者にて、第3回営農連絡会議を開催した。

今回は、通常の各作目の生育状況や事業の進捗など情報交換に加え、本年5月に農林水産省が示した「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、郡上地域における有機農業の取り組みについて意見交換した。

最初に、農業普及課からこれまでの有機志向の農業者への支援状況を説明し、続いて郡上市やJAからそれぞれの立場で意見が述べられた。

農業普及課では、新規就農者の一定数が有機志向であることに鑑み、今後も関係機関と意見交換を重ね、地域にあった支援体制の構築を目指す。



【有機農業について意見交換】